

I 事業の概要（地域の実情含む）

本校は岩手県県北の内陸部に所在し、馬淵川沿いの山間地に位置する。大雨になれば、通学区域である馬淵川流域では、浸水および土砂崩れ等のため避難準備等が発令される。そのため、多くの生徒は自然災害について危機意識を持っている。

そこで、地元である二戸市の防災行政の在り方について学習するとともに、東日本大震災の遺構がある岩手県沿岸部で震災学習を体験することで、地域防災の意識を高める。また、ボランティア活動を体験することで、被災者等への支援を主体的に行える人材を育成する。

II 取組の概要

- (1) 自然災害及び学校安全にかかわることについて学ぶ（平成30年5月9日実施）

「東日本大震災復興に関わる教員の取組」および「学校安全に関する法令及び取組」について、本校職員を講師として、18名の2年生を対象に100分の講義を行った。

釜石地区の高校勤務時に被災し、支援活動に携わった教員の講義は、実体験に基づいているだけに、被災時の支援の在り方について、生徒へ一考を投げかけるものであった。

また、「学校安全に関する法令及び取組」では、演習で学校に関する危険マップを作成し、学校にかかわる安全対策についてより実務的な学習ができた。



危険マップが完成

- (2) 東日本大震災と文化財から歴史の中の災害について学ぶ ～歴史の中の災害と人間の関わりを明らかにする～（平成30年5月23日実施）

東北大学災害科学国際研究所蝦名裕一准教授を招いて講義を行った。

参加した18名の2年生の中で、日本史を選択

している生徒は少数であったが、過去の文献や遺品から、過去の災害や当時の対策について学習した。



蝦名裕一准教授の講義

- (3) 東日本大震災遺構訪問（平成30年7月30日実施）

宮古市田老地区で、宮古観光文化交流会館が行っている「学ぶ防災」に2年生12名、3年生18名の合計30名が参加した。

実際の被災現場を初めて訪れる生徒もいて、そこで視聴した津波の映像に言葉を失ったり、破壊された防潮堤の上から望む復興途中の風景に、自然災害の脅威を感じたりする生徒がみられた。

午後は、三陸鉄道の「震災学習列車」に乗り、車窓から眺める津波の爪痕や、まだまだ取り戻せない、被災地の生活の様子について学習した。



「学ぶ防災」地元ガイドの案内～宮古市田老地区防潮堤～

- (4) 防災プロジェクト報告書作成（平成30年8月17日・23日実施）

福陵祭（文化祭）で、今まで学習してきた成果を発表するためのパネルや、防災意識を普及するための資料を2年生18名で作成した。

- (5) 二戸市教育委員会主催学習支援ボランティア（平成30年8月28日～30日実施）

小学生に教科の勉強を教えるほか、地域の危険箇所や避難の方法について教えた。

- (6) 文化祭にて防災学習の成果発表およびアンケート調査（9月2日実施）

来場した小中学生および、付き添いの保護者に、災害に関するガイダンスを行った。

また、本校2年生を対象に、防災プロジェクトチームの発表を見て、防災意識が高まったかどうかアンケート調査を実施した結果、意識が高まったと回答した生徒は94%であった。



防災学習の成果を発表
～本校文化祭～

(7) 防災の父「田中館愛橋」博士についての学習会 (平成30年10月4日実施)

郷土の偉人、田中館愛橋博士は1891年に発生した濃尾地震を機に、震災予防調査会を立ち上げ、防災や減災を研究することで人々の生命や生活を守ろうとしたことについて学習した。



田中館愛橋博士
について学ぶ

(8) 防災避難訓練実施 (平成30年11月5日実施)

地震発生、火災発生時の避難経路について全校生徒で検証を行った。

(9) 「田中館愛橋」博士の足跡をたどって (平成31年1月4日～11日実施)

明治24年(1891年)に発生した濃尾地震を機に、「震災予防調査会」を設立した郷土の偉人である田中館愛橋博士の足跡をたどり、地域の中高生14名が東京上野にある国立科学博物館に所蔵される同博士考案の地震計を見学した。また、同博士が留学したイギリススコットランドにあるグラスゴー大学を訪問し、田中館博士の受講登録書の見学等、震災・防災教育に携わった同博士の学びの足跡をたどった。



田中館式地震計
～国立科学博物館～

Ⅲ 取組の成果と課題

1 成果

探究学習『地方創生カシオペア講座』（「総合的な学習の時間」の中で実施）で、「教育探究プロジェクト」を選択した生徒を中心に、7月から2月までの8か月間で防災教育を実施した。また、防災教育を受けた生徒は、防災に対する意識を高めるだけでなく、その意識を周囲のものへ伝達する役割を担う必要があった。そこで、8月下旬に、二戸市教育委員会主催学習支援ボランティアに参加した一部の生徒は、出席した中学生数名を対象に防災意識を高めるような取組を行った。

9月の福陵祭(文化祭)ではポスターセッションを実施し、来場した地域の小中学生およびその保護者、本校生徒を対象に防災意識を高める取り組みを行った。福陵祭ではポスターセッション後に本校2年生へ意識調査を実施し、94%の生徒が、「防災に関する意識が高まった。」と回答した。

二戸市中高生海外派遣研修の中で、防災や減災の取り組みを世界に先駆けて行った郷土の偉人である、二戸市出身の「田中館愛橋」博士の功績および足跡をたどる学習を行った。防災や減災について学び知ることが、人々の生活や命を守ること等を中学生も含め学習した。また、「田中館愛橋」博士の足跡をたどる研修で渡英した生徒の一部は、ホームステイおよび学校交流先で、日本の震災や防災についての取り組みを紹介した。

2 課題

拠点校においては、「学ぶ防災」や「震災学習列車」等に参加したことで、被災地の復興状況等を体験的に学び、復興支援に援助の手を差し延べる意味を理解することができた。一方、「学ぶ防災」や「震災学習列車」等に参加した生徒は30名ほどと少数であり、この事業に継続して参加してきた生徒も2年生の18名と少なかった。そのため、学校全体の取り組みに至らず、広範な人々に防災意識を高め、震災復興の担い手を育てるという目標を達成できなかった点が課題として残った。

小中高の連携においては、事業の開始時期が遅かったため、すでに連携先の各校では年間行事が確定している、小中高が連携した新たな防災教育に関する行事を実施することが困難であった。そのため、中核教員が本校の取り組みを伝達、伝講することにどまった。